三重縣答志島の蜘蛛二三

井　上　　巖

答志島（トーシジマと讀むが村の人のいふのを耳にするとトーシでなくてトーセである）は伊勢灣口を扼する諸島嶼中の最大島で周圍約5里と云はれる。毎夏東京文理大動物學學生の海產動物臨海實習が此の島に行はれる。私達は福井教授御指導の下に今夏7月中旬より下旬にかけ2週間を此處に送つた。此の島の蜘蛛は未だ誰も採集したことが無いので多少に拘らず蒐集を望むと高島氏から御依頼があつたので何かお土產を拵へなくてはと極めて少數ながら蜘蛛を集めた。偶然は私をして答志島に於ける蜘蛛採集の最初の人間たらしめたらしい。標品は高島氏を經て植村氏に御査定を願つたがミヤグモ *Ariadna lateralis* (Karsch)（♂1頭キノシシグモ科）オニグモ *Araneus ventricosus* (L. Koch)（2頭　コガネグモ科）コクサグモ *Agelena opulenta* L. Koch（幼♂1頭　タナグモ科）アシダカグモ *Heteropoda venatoria* Linnaeus（2頭　アシダカグモ科）の4種と判つた。尚近くの小嶼菅島の海濱で得た1頭は矢張り植村氏に據ればハヘトリグモ科のイソハヘトリ *Menemerus himeshimensis* Doenitz et Strand とのことである。此處では巖壁に密集して居るザトウムシの1種を得た。同じものを昨夏福井教授が多數採集して持ち歸られ，後に2年の入佐氏がそれを材料にして外部解剖を調べられたさうである（未發表)。此の蟄蟲は高島氏のお話では下田の海濱近くに多いのと同種であるが種名には確信が無いとのことであつた。

答志島の海產動物は夫々の專門家により研究報告されて居るが陸棲動物では高島氏の2篇あるのみなので，答志島の蜘蛛と題するには餘りに種類が少いが敢て筆を執つた。東京に戻ると間もなく學友鳥居酉藏君は召集令狀を受け現在

は既に暴支膺懲の第一線に立つて居られる。共に暮らした愉快な2週間を想起し同君の凱旋の速かならんことを祈る。採集に御援助を賜はつた附田惠氏に深謝の意を表する。

春の蜘蛛 下田と天城

高 島 春 雄

東京市本郷區駒込曙町五

去る5月5日（1937）から8日まで伊豆下田で今年最初の蜘蛛採集を行つた成績が之である。春の下田は私には未經驗であり隨つて下田と天城の春の *Sybota varians* を窺ふのも今度が最初であり，亦報告としては此の小文を以て斯界嚆矢とするであらう。採集旅行に便宜を寄せられたる福井玉夫教授，査定の勞を執られた植村利夫學兄に深甚の敬意を表するものである。

下田に在る東京文理大臨海實驗所に宿泊して居たが先づ寄宿舍内でオホヒメグモ，ウヅキドクグモ，クサグモ（幼），アダンソンハヘトリ，チヤスヂハヘトリ，アシダカグモ（之は確認のみ）等を採つて氣をよくし野外に出ては下掲の23種程を採集した。

ウヅグモ科 *1オホヒカゲグモ *Sybota varians* (Boesenberg et Strand) **ヒメグモ科** 2オホヒメグモ 3コノハヒメグモ 4ヌサグモ *5カレハヒメグモ *Teutana transversifoveata* Boesenberg et Strand **サラグモ科** *6ヒラサラグモ *Linyphia nipponica* Kishida **コガネグモ科** 7オニグモ *8チユウガタコガネグモ *Argiope aetherea* (Walckenaer) 9ヤマシロオニグモ 10ゴミグモ *11コシロガネグモ *Leucauge subblanda* Boesenberg et Strand 後條參照 12コガネグモ 13アシナガグモ **ドクグモ科** 14ウヅキドクグモ 15ドクグモ一種 *Lycosa sp.* (幼) **タナグモ科** 16クサグモ（幼）*17イホグモ一種